

寛永寺：上野大仏

上野大仏は、不幸が続いた 350 年の歴史で破壊されずに残りました。かつては堂々とした像でしたが、今では顔だけが上野公園の中心部にある小さな丘、大仏山にあります。当初 1631 年に大仏が建立されたところです。元来のは、村上藩（現在の新潟県）藩主の堀直寄（1577～1639 年）が寄進したものでした。堀は徳川幕府に尽くしたことが認められ、上野に土地を与えられました。徳川家台頭の前、戦国大名が覇権を争った戦国時代（1467～1568 年）に亡くなった大勢の人々を記念することを堀は願いました。堀の大仏は堀よりも長い期間存在しましたが、1647 年に破壊されました。地震によって火災が発生し、像を収めた建造物が焼け落ちたのです。

上野の大仏は 16 年の存在期間で愛される名物となっていたため、江戸の人々は復興を願いました。願いはとても強く、1655 年から 1660 年に集められた寄付によって、新たな像を铸造するのに十分な資金ができました。2 代目の大仏は高さ 3.6 メートルの青銅の像で、前身よりもはるかに高い耐久性がありました。1800 年代に像は数々の火災や地震による損害を被りましたが、いつも修復されました。修復にはしばしば、堀 直寄の子孫が携わりました。新世紀の幕開けは、大仏にとって不幸なことでした。1923 年の関東大震災ではマグニチュード 7.9 の揺れが起き、100,000 人以上の人が亡くなり、大仏の頭部が本体から外れたのです。そして、第二次世界大戦の期間中、顔を除く像の金属部分全てが軍事目的で徴発されました。ずたずたの大仏は何十年にもわたって倉庫の壁を眺めるがままになっていました。ついに 1972 年、地元の観光協会の度重なる要望を受けて、顔が大仏山の拠点に戻りました。